



ライオンズクラブ国際協会
336 - A地区2R - 4Z

2011年 **11**月号

No. 414

西条

4ゾーン合同アクティビティー 東部公園・桜の植樹

2011.11.12



SAJO LIONS CLUB

SAJO LIONS CLUB

SAJO LIONS CLUB

2011—2012

国際会長

ウィンクン・タム

モットー 「 WE SERVE(われわれは奉仕する) 」
ハイライト 「 ! Believe ~ 信じる ~ 」

336 - A地区ガバナー

菅 武 廣

スローガン 「 豊かな 明るい未来に We Serve 」
キーワード 「 愛 」

336 - A地区2RC

田 村 征 夫

キーワード 「 本物志向 」で

西条ライオンズクラブ会長

明 比 紳 一 郎

スローガン 「 はばたけ 未来へ 感謝を込めて WE SERVE 」
キーワード 「 新たなる一歩 」

(実施日程) 平成23年10月25日～27日 (県議会「環境保健福祉委員会」視察)

「福島オフサイトセンター」「東北電力女川原子力発電所」の状況調査のため、5ヶ月ぶりに福島・宮城の両県を訪問した。

まず最初に、福島県庁で「災害対策本部原子力班」の『福島第1原子力発電所事故への対応状況』について、今日までの取り組みの説明を頂き、国が避難指示を発した警戒区域(20K 圏内)には約78000人の人口があり、放射線量の高かった飯館村など計画的避難区域(約11000人の人口)の指定や解除の状況、現在(10月初現在)でも県内に1000人余、県外に57000人余の住民避難が続き、今も9町村が役場を区域外に移転しており、**住民の動向の把握や、情報伝達に苦労している事、さらには非難区域が解除されたが、「除染」の課題がまだこれからの問題だとの悩み・苦労が聞かされた。**

また、オフサイトセンターは原発近くに設置されていたが、避難指示区域内であり、県庁内に設置され、今も総勢150人ぐらいの各分野にわたるスタッフでこた返していた。

愛媛では八幡浜市内にオフサイトセンターがあるが、松山に設置するのが適切だろうと思われる。(松山の原発本部にも同時中継施設はある)。

また、日頃より分かりやすい放射能の知識などの、資料配布や学習の機会も必要性が痛感された。

次に女川原発は、福島第1と違って、備えもよかったが非常に幸運もあったと痛感した。敷地は津波の想定水位は9Mであったが、14Mで造られていたので、ギリギリ浸水も免れた。また送電網も5回線の内1回線が正常を保たれたため、非常電源の発動もなく、冷温停止し収められた。何と2号機は3月11日の午後2時に定期検査後の起動を開始し、45分後に自動停止したのも奇遇である。

女川町でも多くの住民が被災したが、幸いにも原発内の建物施設が無事だったので、近隣地区の住民を避難施設として受け入れ、6月6日まで最多時には364名が避難していたという。(ニュースでも流れた) その後も、安全対策や訓練を重ねられていると聞き安心感を持ったが、福島との明暗の差がやるせない。この原発関係調査の過程を利用して、石巻市街の被災状況と南三陸町の震災津波状況を視察した。5ヶ月前と比べ、車や船があちらこちらにひっくり返っている様子こそあまり見当たらないものの、復興が緒についているとは全く思えない。ガレキが分別してうず高く積み上げられているだけだ。

このガレキは被災地で3000万トンも余るといわれ、10年経っても現状では片付かない。

特に石巻市街はひどい、建物が建っていても窓や壁が崩れ落ち、人が住めない住宅が何百戸も見られ、水産関係の工場も随分あったと思われるが、復興操業のかけらも見られない。

南三陸では観光協会が「語り部」活動を通じ、あえて被災の話をし、災害の恐ろしさの体験を風化させない事も大切との認識で、案内してくれた。

落ち着いた日常を取り戻すには何年かかる事やら…。痛みを国民みんなで分かち合おう。

「がんばろう 日本！」



石巻市住宅街



南三陸防災対策庁舎



南三陸町立戸倉小学校跡



《 共同体の美德 》

会長 明比紳一郎

西条ライオンズクラブ会長に就任し、半年近く経過しようとしています。会員の皆様には、アクティビティへの参加等、クラブへの御協力、大変感謝しております。

今年度のスローガンは、今から訪れる時代を思い、「はばたけ未来へ 感謝を込めて」、又、キーワード「新たな一歩」とさせていただきました。皆様のお陰で事務局の移転から始まった当初より計画していた事業は順調に遂行されていると思っています。

現在35%程の達成率？その様な思いがしています。後半においてもキーワード「新たな一歩」を踏まえ、御協力よろしくお願い致します。

先日、日経産業新聞の紙面に「共同体の美德」という記事がありました。アメリカの政治哲学者、マイケル・サンデルが提唱する《 正しさを判断する基準とは 》という内容です。一般に正しさを判断する基準は3つあります。1つは「功利主義」、これは最大多数の最大幸福を実現する考え方ですが、その為には、多少の不幸はあっても仕方がないという考え方です。2つ目は「リベラリズム」個人の自由や権利を保障するのが正しいという考え方ですが、自分さえ良ければという結論になりやすく、全体を考えての判断は難しいと思われる。3つ目がサンデルが提唱する「コミュニタリズム」です。この考え方は「共同体主義」とも訳されます。共同体の美德の基準は、功利主義による幸福の最大化やリベラリズムによる自由の保障といった基準では救えないものを救うということです。いわば社会に対する愛着や感謝の念です。その根拠は、私達個人が1人で生きている訳ではないという点に求められます。サンデルは「私以外の人々がいてくれたお陰で、今の私という人間はある。こうした他者たちこそが今の私という人間を様々な仕方で不断に作り上げている。」と言っています。誰もが縦にも横にも広がった関係性の網の中で生かされている。要約しますと、この様な記事が載っていました。今日、企業、組織のガバナンスの問題が、多く取り上げられている中、この「共同体の美德」という考え方は、ライオンズの精心、又は運営に深く通じる所があるという思いで紹介させていただきました。

第24回国際平和ポスターコンテスト表彰式

日時：2011年11月30日（水）

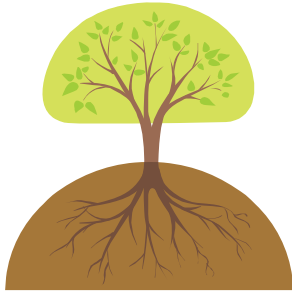
会場：西条市立神拝小学校体育館

神拝小学校体育館において、国際平和ポスターコンテスト参加者の中から入賞した5名に表彰状を授与しました。



5点の作品は、12月12日（月）～12月22日（木）まで伊予銀行株西条支店内に展示される予定です。





【 木を植えるとは 】

L. 國田 経 仁

われわれ日本人は、およそ4千年前からさまざまな自然災害に耐え、この小さな島国に生き延びてきました。この長い生命の歴史を経て現在を生きている私たちが未来に残すべきもの、それはかけがえのない命をつないできた遺伝子です。この遺伝子を守り、命を支えている唯一の具体的なものが、地球上のあらゆる生命の生存の根源である「森」なのです。

30億年という進化の最終段階で現在の人類は生まれ、森の中で生活をしていました。最初の500万年は森に支えられ、森を畏敬し生き延びてきたのです。ところが、数万年前から人類は、この森を邪魔物とし、森の神を滅ぼし、森を破壊し克服して都市を建設し文明を築いてきたのです。まさにハリウッド映画の「アバター」の様なありさまで、しかし日本人は「ふるさとの木によるふるさとの森」を残し、守ってきたのです。日本古来の神道はあらゆる自然を神とした多神教です。また1400年前に伝来した仏教も草木にも仏心が宿ると教え、森と共生する日本人固有の思想・宗教・文化に同化してきました。私たち祖先は、大きな森や老木などに神宿る森、神木と崇め残してきました。宮崎駿氏のアニメ映画「もののけ姫」そのものではないでしょうか。

全ての物には生命が宿るという考えは古来より日本人の心の中に宿っていました。この考えが、日本のありとあらゆる所に神となった木々が育つ鎮守の森となったのです。

しかし、ここ数百年、とくに第二次世界大戦後の半世紀は残された最後の森や自然も破壊され、人工的なものへと変わっていつています。

私達人間を含め、ほとんどの生物は酸素を吸って二酸化炭素を出しますが、その二酸化炭素を植物は光合成を使って酸素を出します。この地球上で唯一の生産者はこの植物だけです。だからこそ、生物が生きること不可欠なこの植物を守り育てていくことこそが、これから未来へ生き延びていく最大の使命ではないでしょうか。

木を植えることの大切さはよく理解できたと思いますが、どんな木でもいいというわけではありません。この日本の国土に合った木を植えるべきです。その木とは風水害に強い照葉樹です。照葉樹として、身近でよく見かける木としては、ツバキ、モッコク、モチの木、そしてこれほど生育の強い木は、ないだろうと驚かせるドングリの木です。まだまだ多くの種類はありますが、どの木も常緑で、根を地中深く伸ばすものです。

植樹とって、身構える必要はありません。自分の家の庭から始めていこうではありませんか。そして、地域の人々の手によって、より多くの場所に森ができることを願います。



宮脇氏が「混植・密植型植樹」として提唱する鎮守の森（篠山市）



最後に、この原稿を書くにあたって、宮脇 昭先生著【木を植えよ】より多く引用させていただきました。私のこの文章に興味をもたれた方は、ぜひ一読をおすすめします。



第42回 西条市青少年剣道練成大会 開催



日時：平成23年11月3日(木)午前9時 開会

会場：西条市西部体育館

今大会参加者103名が西部体育館にて日頃の鍛錬の成果を発揮すべく、真剣勝負が繰り広げました。大会成績は以下の通りです。入賞された皆さん、おめでとうございます。

優勝

《小学校1,2年男子個人の部》
《小学生3,4年男子個人の部》
《小学生3,4年女子個人の部》
《小学生5,6年男子個人の部》
《小学生5,6年女子個人の部》

高橋優仁(飯岡)
村上洋信(飯岡)
山内晶結(武徳殿)
山内雄生(武徳殿)
田中千愛(武徳殿)

二位

日野優璃(飯岡)
徳増直記(飯岡)
森本水結(飯岡)
木庭吏玖(飯岡)
金田茉由佳(武徳殿)

《中学生男子個人の部》
《中学生女子個人の部》
《高校生男子個人の部》

石川智也(西条北)
松田愛菜(西条南)
田中 誠(西条高)

日浅惇之(西条北)
黒河美桜(西条南)
日野祥太(西条北)

《高校生女子個人の部》

今久保知那(西条高)

宮田真理(西条高)



《会員短信》

祭りのいた〜い思い出

L. 山本新一郎

みなさん 今年の西条祭りは、いかがでしたでしょうか。

私の部落は、下喜多川です。そうです、みこしです。

今年も私はさわらず、前に出ず、安全運行に気をつけて、祭りをしておりました。又、今年は総総代の補佐という立場である為、特にまわりに気を使っておりました。

が、しかし、16日の朝の御殿前にてハプニングを起こしてしまったのです。頼まれもしないのにお堀のコーナーの一番危ない場所の警備につき、みこしが走って廻る安全を見ておりました。そこへ、小廻りしてきたみこしに私は、追突されてしまったのです。私は吹っ飛び、その力により私の後ろの御婦人2人、男性2人をお堀へ落としてしまいました。お腹には、今もあざが残っております。



法被をつけて、たすきまでつけて、ひっくり返って、本当にはずかしかったです。

以上、私のいた〜い祭りの思い出でした。

追伸 私の勇姿は、youtube みこしのハプニングにてご覧下さい。

今治ライオンズクラブ結成50周年記念大会に参加して

L・土居恵三

去る、2011年11月20日(日)に今治国際ホテルにて、今治ライオンズクラブ結成50周年記念式典が開催されました。昨年の、我がクラブ結成50周年記念大会の際には多くのご参加を頂きましたので、今回はクラブより総勢15名の登録にてお祝いして来ました。また、スポンサークラブの松山ホストライオンズクラブをはじめ、姉妹提携クラブの尾道ライオンズクラブ・嘉義(中華民国)ライオンズクラブからも大勢参加され、総勢約350名の盛大な式典でありました。50周年記念事業の発表では、テーマを「道標」と定め行った様々な活動の紹介がありました。その中でもメイン事業として建設された「灯台」にはライオンズ精神を後世まで引き継ぐためのシンボル・道標になればとの思いが込められているそうです。祝宴では、樋口獅子舞保存会による継獅子の精興で始まり、朝倉ブルーグラスバンドによるカントリー&ウエスタンバンドの余興を楽しみながら、美味しい食事をいただきました。最後は、西条ライオンズクラブが誇る近藤基弘さんの指揮で、また会う日までを斉唱して閉宴となりました。



記念ゴルフ大会参加報告 2011.11.19(土)

今治カントリー倶楽部にて開催され、我がクラブからは少数精鋭となる6名にて参加致しました。生憎の豪雨と濃霧で大変過酷な中でのプレーとなり、コースの至る所に川がで、パンカーやグリーンも水溜りでしたが、皆気落ちすることなく精一杯プレーしてきました。その甲斐あって4名が賞をいただきました。皆様お疲れ様でした。

39位 徳増達史さん 46位 加藤弘道さん 77位 土居恵三さん
90位 植木光夫さん 105位 明比紳一郎さん 115位 加藤加代子さん



編集後記

ヒマラヤの王国ブータンのワンチュク国王夫妻が11月に来日し、東日本大震災の被災地・福島県の小学校訪問で子供たちに話した「龍」のお話があります。「龍を見たことがありますか? 龍は一人ひとりの心のなかにいます。私たちは『人格』という名の龍を持っています。龍は私たちみんなの心の中に居て、『経験』を食べて成長します。だから、私たちは日増しに強くなるのです。そして、感情をコントロールして生きていく事が大切です。どうか自分の龍を大きく素晴らしく育てて行って欲しい。」 本当によい言葉ですね。

西条ライオンズクラブは、50年の経験を積んできました。平成24年は「辰年」です。さらなる経験を積み重ねることで、私たちの龍が大きく育つ姿をPR・広報委員会では記録していきます。
PR・広報委員 盛實正人

発行所 ライオンズクラブ国際協会 336A地区 2R4Z
西条ライオンズクラブ
事務局 〒793-0030
西条市大町771番1 ← 移転しました
西条国際ホテル内1F
TEL (0897) 56-3980
FAX (0897) 56-9251
E-mail saiyo-lc@abeam.ocn.ne.jp

発行者 会長 明比紳一郎
幹事 植木光夫
PR・広報委員長 土居恵三
編集委員 今岡正士・明比昭治
仁後真貴雄・盛實正人
瀬川大秀・伊藤隆治
例会日 第2・第4火曜日
例会場 西条国際ホテル
印刷 西条ライオンズクラブ事務局